

アニマルウェルフェアに関する対応について

令和7年7月16日
JA全農 畜産総合対策部

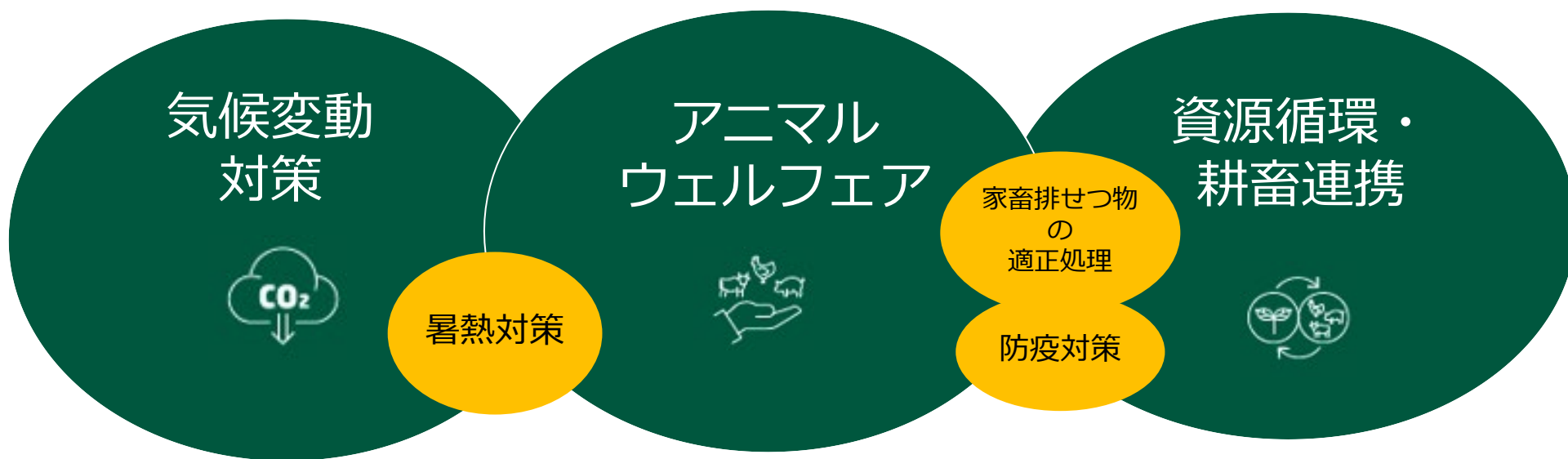


ZEN-NOH

食と農を未来へつなぐ。

サステナビリティ課題としてのアニマルウェルフェア

- ・JA全農は2024年5月に「畜産酪農サステナビリティアクション」を発表。持続可能な畜産酪農事業に向けて3つの重要課題・課題解決のアプローチを設定。
- ・我が国ではアニマルウェルフェアの認知度が低いことに加え、3つの課題は相互に影響を与えていることから、企業のサステナビリティ情報開示の枠組みの中で「アニマルウェルフェア」を業界で認識を合わせながら進める必要があると認識。
- ・サステナビリティの推進に当たっては経済性との両立を図る視点が必要不可欠であり、アニマルウェルフェア向上施策に伴うコスト上昇を社会全体でいかに吸収するかステークホルダーとの対話が重要。



参考) 畜産酪農サステナビリティアクション

https://www.zennoh.or.jp/sr/animal_welfare/pdf/sustainability-action.pdf

情報開示の在り方を関係企業間で検討

・気候変動、自然資本、循環経済、人権/人的資本など、企業にとって情報開示が必要な課題が広がるなか、アニマルウェルフェア向上の方策について企業間での共通認識の醸成が必要。

⇒「アニマルウェルフェアに関する飼養管理指針」チェックリスト達成がゴールではない。

・2025年4月からサステナビリティ部署のラウンドテーブル（円卓会議）を月1回程度開催。畜産酪農業界におけるアニマルウェルフェア対応の共通認識を醸成し、情報開示の方向を検討。

サステナビリティ情報開示の中長期的な発展イメージ



畜産酪農業企業サステナビリティ部署 ラウンドテーブル ※順不同

日本ハム株式会社
伊藤ハム米久HD株式会社
プリマハム株式会社
スターゼン株式会社
日本生活協同組合連合会（オブザーバー）
全国農業協同組合連合会

※参加組織・企業は今後も増減の可能性あり

情報開示の試行的取り組み

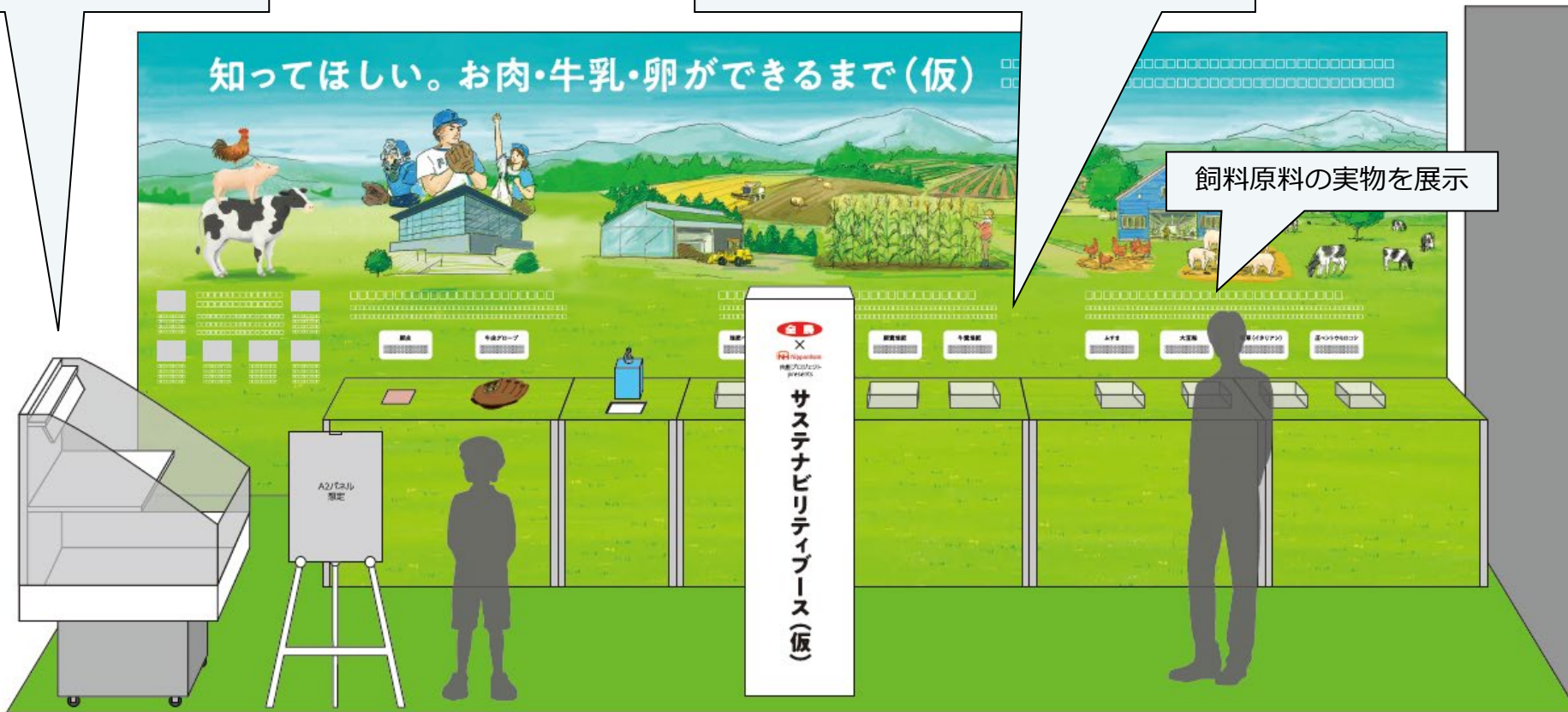
- ・ アニマルウェルフェア及び畜産酪農業のサステナビリティを広く知ってもらう展示ブースを畜産酪農企業間で連携し今夏、エスコンフィールドHOKKAIDOにて出展予定。

サステナビリティブース 立体レイアウトイメージ図（ラフ）

製品・商品の展示

革製品やバイオガス等、資源循環の
取り組みを紹介

飼料原料の実物を展示





ZEN-NOH